

平成 21 年度第 1 回血液事業部会適正使用調査会議事要旨（案）

日 時：平成 21 年 7 月 9 日（木） 14：00～

場 所：はあといん乃木坂 B 1 F 「フルール」

出席者：

（委員）

高橋座長

飯沼、稲田、稲波、大戸、河野、小山、佐川、鈴木、田中（純）、
田中（政）、種本、益子、三谷、各委員

（参考人）

田中参考人、牧野参考人、日本赤十字社

（事務局）

新村課長、林企画官、秋野補佐、秋山需給専門官、他

- 議 題： 1 座長の選任について
2 前回の議事要旨について
3 2008 年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告に
ついて（日本輸血・細胞治療学会）
4 血漿成分製剤（新鮮凍結血漿）の使用量について
5 アルブミン製剤の使用量について
6 「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の
一部改正（平成 21 年 2 月）について
7 平成 21 年度血液製剤適正化方策調査研究事業について
8 自己血輸血の指針の改定（案）について
9 その他

議題 1 について

委員の互選により、高橋委員が座長に選出された。

議題 2 について

議事要旨に関する意見については、事務局まで連絡することとされた。

議題 3 について

牧野参考人及び田中参考人より、「「2008 年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書」の概要」、「2008 年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書」データ集」、「輸血に関する総合アンケート

調査報告」及び「2008年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書：比較・解析」について説明後、下記のような意見が出された。

- 今回のアンケート調査の結果をみると、中規模以上の施設において、平成17年の調査と比較して、輸血管理体制及び血液製剤の使用状況について、かなりの改善が認められる一方、小規模施設についてはアンケート調査の回答率が低いことから評価が困難であり、今後の課題であろう。
- 血液製剤の使用状況については各自治体で差があり、それを改善するためには合同輸血療法委員会を開催して、そこで地域の中で先進的な医療機関を作って、それを各施設が見習うというようなやり方が有効ではないか。

議題4について

事務局より「血漿製剤の規格変更に伴う使用量」について、日本赤十字社より、「新鮮凍結血漿の容量変更に関するお知らせ分の発行及び配布状況」について説明後、下記のような意見が出された。

- 外科においてFFPを使用する場合は大量出血の場合が多く、使用者側の立場に立つと、高単位製剤の方が使用しやすいこと、十分な凝固因子を補うためには多めの投与をすること、ドナー数を減らすことから高単位製剤に偏るので、この3点の問題を解決しないとFFPの使用数は減少しないと思う。
- 単純にFFPが1.5倍量になっていることが十分現場で認識されていないことも原因の一つと考えられる。

議題5について

事務局よりアルブミン製剤の使用量について説明後、下記のような意見が出された。

- アルブミン製剤の国内自給の問題については、インフォームド・コンセントの際に、国内献血由来のものなのか外国産のものかを患者に説明しているかということや病院で製剤を採用する際にしっかり血液法の趣旨である国内自給達成ということが話し合われているかということなどを確認しながら進めていく必要がある。
- 輸血・細胞治療学会にはアルブミン製剤のビッグユーザーの先生方が参画されていないため、ビッグユーザーの先生方にアルブミンの国内自給率の低下の問題等の状況をどうやって伝えていくかが問題である。

議題6について

事務局より「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正について説明後、下記のような意見が出された。

- これらの指針については、本格的な改訂を考えなければならないと考えており、輸血・細胞治療学会においても、その指針の改訂原案を作成してなるべく良い原案を本格的に作りたいと考えている。前回の改訂でもビッグユーザーの先生方のご意見が反映できていない部分がまだ残っているので、来年の初めくらいに原案を提示して、それを各学会の総会が開かれる期間までに、十分ディスカッションしていただいて本格的な改訂ができればよいと思う。

議題7について

事務局より「血液製剤使用適正化方策調査研究事業に係る企画書募集要領」について説明後、下記のような意見が出された。

- 合同輸血療法委員会を体験してそれがうまくいった経験がないと、合同輸血療法委員会のやり方がわからず、また、実際に具体的に実施するには行政と日本赤十字社の血液センターの先生方と医療機関の先生方がうまく連携することが必要であること、リーダーがうまく進める必要があることからまだ浸透していないきらいがあると思うので、合同輸血療法委員会を推進する意味で、是非この事業をまた進めていただきたいと思う。

議題8について

佐川委員より「自己血輸血の指針 改訂版（案）のねらい」について説明後、下記のような意見が出された。

- 今回提示されたものについては、まだ考えなければいけない部分があり、それについてご意見をいただくとともに、研究班で行っている新しい自己血輸血の指針などの研究結果等と整合性をもつような形で修正して、しっかりした案を作っていきたいと思う。